



仙台・宮城元気ニュース

～仙台地域の元気な情報を掲載！～

Vol. 2

平成 23 年 5 月 18 日

【発行】

宮城県仙台地方振興事務所

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。この仙台・宮城元気ニュースは、宮城県の復興を目指す皆さまに少しでも元気になっていただけるよう、仙台地域の明るい話題や元気な人の情報を発信していきます。

営業再開した主な施設

□■みちのく伊達政宗歴史館（松島町）
電話 022-354-4131
大河ドラマ「独眼竜政宗」パネル展を開催中。伊達かふえでは飲食もできます。戦国ばふえ復活しております！

□■松島・塩釜間の定期遊覧船運行再開
電話 022-365-3611（丸文松島汽船本社塩釜営業所）

□■マリゲート塩釜（塩竈市）
電話 022-362-4542
物販（笹かまぼこ・地酒等）・レストラン（ランチメニュー）再開しております。

□■秋保大滝植物園（仙台市）
電話 022-399-2761
秋保大滝は滝壺まで通行可能です。

□■秋保里センター（仙台市）
電話 022-304-9151
観光案内所・展示棟営業再開！

□■ニッカウキスキー仙台工場（仙台市）電話 022-395-2865
蒸留所見学実施中です！

□■瑞巖寺 上段の間・上々段の間特別公開（松島町） 4月8日（金）～5月31日（火）、電話 022-354-2023

イベント

□■仙山交流フェスティバル
旬感旬味むらやまフェア
5月26日（木）～5月27日（金）
午前10時～午後5時（27日は午後4時）
場所：勾当台公園（市民広場）
電話 0237-55-2111
（村山市観光物産協会）
ひとこと：「村山市の特産品を販売し、元気と癒しをお届けします！」

□■十符の里 農産物直売所（利府町）
ふれあい館・オープン6周年セール
5月29日（日）午前9時半～午後1時
場所：利府町生涯学習センター敷地隣接
電話 022-767-1731
ひとこと：「地元産新鮮野菜を販売します。先着で花苗をプレゼント！」

（1）復興の一助に！ 地域食材販売で産地支援を～地元産きのこによるフランスパン発売中～

フランスパン製造販売の（株）メゾンカイザー仙台では地元食材を活用したフランスパンの商品化に取り組んでおり、今月上旬から原木しいたけと舞茸を活用した商品が泉タピオ店、三越店で販売されています。

メゾンカイザー仙台では、昨年からブルーベリーや仙台曲がりねぎなどの地元食材を活用した商品を発売してきましたが、今回の商品については、地元産の食材を活用することで復興支援の一助としたいとの強い希望があり商品化が決定したものです。

食材を提供していただいた熊谷しいたけ園（仙台市泉区）と麓上舞茸生産組合（大和町）は原木が倒れるなど被災しましたが、復旧に全力をあげ今回の食材提供にこぎつけることができました。

なお、この商品の売り上げの一部は復興のために寄附される予定となっております。



（2）復興への第一歩、青空元気市で農産加工品の販売！



ゴールデンウィーク中に仙台市サンモール一番町商店街などで開催された青空元気市に、仙台市からは佐々木千賀子さん、岡田手づくりアグリ会の会（代表：菅野陽子さん）、セイフティ・グリーン松元（代表：松元裕子さん）、農家レストランもろや（萱場市子さん）が、大郷町からは Fluffy Heart（千葉智恵子さん）、菜々いろ（鈴木さとみさん）が出店し、自家生産物を使った農産加工品の販売を行いました。

仙台市の4団体は、いずれも家屋や加工場、田畑等に被害を受けましたが、被災した加工場を修復し、辛うじて被災を逃れた自家生産物を使って、やっと営業再開に漕ぎ着いた方や、地域の避難所で炊き出し等のボランティアに奔走する方々です。

「大変な状況でも下を向いてばかりはいられない。私達が頑張ることで地域を元気にしたい」と、青空元気市に出店した皆さんは、とても強い気持ちで語っています。

(3) 「仙山交流味祭 in せんだい～復興市～」を開催します！

仙台と山形県村山地域の食の交流イベント「仙山交流味祭」が今年も開催されます。

この催しは、食を通じて仙山圏の交流を深めることを目的に、仙台地域と山形県村山地域で生産された農林水産物や加工品などを一堂に集めて、直接販売する産直市として平成15年から開催しています。

東日本大震災により仙台地域のほとんどの出店者は被災しましたが、震災からの復興と更なる発展を目指し「復興市」として開催することになりました。今回は津波で大きな被害を受けた塩竈や亘理、山元など沿岸部からも出店します。仙台地域からはずんだ餅をはじめ、ほっきめしや、新鮮野菜など、山形地域からは米沢牛串焼きやコロケ、イワナの塩焼き、山菜など、地域の特産物や旬の食材を生産者自ら販売します。



両地域の観光情報を発信する仙台・山形交流PRコーナーでは昨年秋にデビューした山形の新しいお米「つや姫」の紹介や、これからが旬のさくらんぼの紹介も行われます。おいしい山形シンボルキャラクターの「べろりん」も登場します。また、被災された方々の生活が1日でも早く復旧するよう2日間の売上げの一部を義援金に充て、会場内にも募金箱を設置します。

開催は5月31日(火)と6月1日(水)の2日間で、両日とも午前10時から午後4時までを予定しています。開催場所は仙台市役所前の勾当台公園市民広場です。

生産者たちとの会話を楽しみながら、地域特産物や旬の食材をたっぷりゲットしてください。皆様のお越しをお待ちしております。

(4) 多賀城市の小学生ジャズバンド～笑顔の卒業ライブ～

多賀城市の小学生ジャズバンド「ブライトキッズ」が、5月15日に国分町元鍛冶町公園の野外ステージで、卒業ライブを行いました。定禅寺ストリートジャズフェスティバルなどの各地のイベントで活躍する彼らの出演を知り、駆け付けたファンも多くいました。

彼らは多賀城市内3校の小学5、6年生を中心に、14名で活動してきました。そのうちの7名が、今年小学校の卒業式を迎え、中学生となりました。本来であれば、3月13日に、七ヶ浜国際村大ホールで恒例の卒業コンサートを行う予定でした。しかし、震災によりコンサートを行うことはできず、指導者である星貴彦さんは「なんとか卒業式の場をつくってあげたい」と思っていました。

そんな彼らの事情を知り、仙台市の演奏家が声をかけたのは4月下旬のことでした。ライブへの誘いを受けた当初、星さんには「今、音楽をしてもいいのだろうか」という迷いがあったといいます。しかし、コンサートができなかったという悔しさと、音楽を通して皆に「明るい笑顔を取り戻してほしい」という思いが、今回の出場を決意させました。

ライブ当日、ステージには子供たちの笑顔がありました。そして、それを見守る観客にも、同様の笑顔が浮かんでいました。ブライトキッズは「イン・ザ・ムード」など、12曲を披露しました。彼らの見事な演奏に拍手が鳴りやまず、2度のアンコールに応えました。

ステージ上で星さんは「色々な人たちに支えられて、卒業ライブを行うことができました。感謝しきりで、本当にありがたいと思っています。たまには、こうした場所(公園等)で休みながら、音楽でも聴いて休憩して、そして、ちょっと泣いたりしながら、前に進んでいけたらいいと思います」と語りました。

メンバーの金野眞子さんは「これからも協力して、喧嘩のないよう仲良くやっていきたい。6年生がいなくなっても、メンバーを増やして頑張っていきたい」、高橋由依さん、菅原優依さんらは、「ジャズフェスが1つの目標なので、いつもと同じように頑張りたい」と目標を語りました。また、今回が初のステージだという3年生の後藤有由未さんは、緊張したと言いつつも、ブライトキッズでの活動を楽しそうに話してくれました。卒業ライブが終わり、ひとつの区切りがついたブライトキッズですが、今後も新しいメンバーとともに、みんなを笑顔にする温かな音色を響かせてくれることでしょう。



(5) (株)奥羽木工所が全国の教育施設等に向けた木製家具の生産を再開!

仙台市宮城野区港に工場が立地する(株)奥羽木工所は、県内だけではなく、遠くは九州まで、教育施設や医療施設などで使われる木製据付家具を生産していましたが、東日本大震災の津波により、工場及び加工施設は壊滅的な被害を受け、生産中止を余儀なくされました。

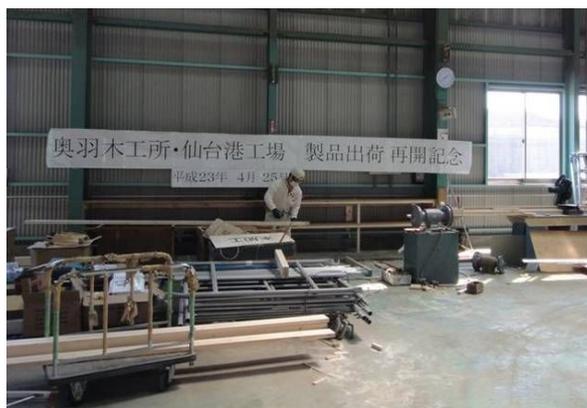
仙台港に陸揚げされた新車群が工場内に流入したほか、それら流入物の衝撃により火災が発生するなど、復旧は困難と思えました。そのような状況でありながら、138人の従業員が無事であり、また、顧客データも失わなかったことから、従業員の雇用と企業の信用は守られました。そして、宮城の復興のため再稼働を決意し、震災直後から復旧作業に着手しました。

災害発生翌週には、中国で開催された木工機械展示会での商談に参加するなどして、生産再開に必要な最小限な機材の確保を図りました。その一方で、4月22日からは岩沼市にある協力企業の一角を借りて夜間に作業を行いながら注文品の生産を再開してきました。

また、これと平行して、工場内の比較的被害の少なかった別棟の建物を補修し、仮工場としました。仮工場では、確保した機械一式の設置をもって、5月5日から本格稼働に至っています。

このような短期間での生産再開は驚異的であり、並々ならぬ工場関係者の前向きさと熱意が伝わってきます。未だ電力不足のため、自家電源を確保しながらの操業ですが、4月25日からは、他県への製品の出荷が再開されており、文字通り宮城発の元気を全国に発信できるものと確信しています。

なお、現在は従来の製造ラインの2~3割の稼働に止まっており、全長300mを超える工場本来の生産ラインは夏期の仮復旧を目標に現在作業中です。



(6)「うらと海の子 一口オーナー制度」による支援が4,000口突破!



浦戸諸島ではノリ・カキの養殖が盛んに行われていましたが、東日本大震災により養殖施設や設備が流出し、大きな被害を受けました。養殖業復興のために、県漁協浦戸支所所属の生産者等が「うらと海の子再生プロジェクト事務局」を立ち上げ、1口1万円を支援金として募る「うらと海の子一口オーナー制度」を始めました。この支援金は、漁業資材の購入・漁業設備の修繕等に充てられ、海産物が収穫できるようになり次第、支援された方々に海産物が送られます。

ホームページによる募集に加え、新聞等でも紹介されたことから、北は北海道から南は沖縄まで全国各地から申込みがありました。これまでの加入者数は約3,000人にのぼり、1人で50口や100口を申し込まれる方もいるため、口数では4,000口を突破する勢いです。この支援の広がり、事務局では、「支援して頂いた多くの方々に心から感謝するとともに、一日でも早く漁業を再生していけるよう努力したい」と決意を述べています。

【申込先】 うらと海の子オンラインショップ <http://www.urato-uminoko.jp/>

(7) 名取市本郷・堀内地区で除塩作業進む

名取市の通水可能なエリアでは、塩害が懸念されるほ場で除塩のための代かきが進められています。

名取市本郷地区、堀内地区では、津波が排水路等から逆流し水田が浸水したほ場が確認されましたが、同地区は河川への自然排水が可能なエリアであるため、名取市水田農業推進協議会等から耕作者等へ除塩作業が必要である旨の連絡を行い、除塩作業に取り組みました。現在は23年産水稻の作付けに向け、準備を進めています。

本郷地区については、代かき後の水田土壌の電気伝導度(EC)を測定した結果、水稻を作付けしても問題のない値であることを確認しました。堀内地区についても、順次、EC値の確認を進めていきます。田植えについては、5月中旬から実施する予定です。



(8) 津波をのり越え、小松菜栽培を再開！



ハウスを使い小松菜を周年栽培する仙台SGC（七郷グリーンクラブ）は構成員5名で若林区藤田を中心に活動しています。3月11日の津波により、特に仙台東部道路の東に位置する3名の施設は壊滅的な被害を受けましたが、西に位置する2名の施設については、膝上まで冠水したものの幸い施設の被害は免れました。

しかし、残されたハウス内の土壌は一面に厚さ2～3cmのヘドロで覆われ、それが乾燥するにつれ塩を吹き出しながら上に反り返るためひび割れてきます。

家族全員と農業サポーターの手伝いによるヘドロの剥ぎ取り作業は、4月20日から5月7日まで延べ90名を要しました。ヘドロの下のハウスの土は除塩前にはEC（電気伝導度）2.6で

ましたが、石灰を10a当たり180kg投入後耕耘することにより、24時間灌水でEC0.25まで除塩できました。

これらの2施設では4月22日と5月2日に小松菜を播種し、すでに発芽し、ともに順調に生育しています。仙台SGCは仙台卸売市場に出荷する予定であり、6月頃には震災復興小松菜が店頭に並ぶことと思います。

◇編集後記

新緑が鮮やかに映える5月、大阪府の子どもたちから一通のお手紙が届きました。封筒には「がんばれ日本 元気を出して！」の文字。B4サイズの便箋にはカラフルなイラストと共に、温かなメッセージがつづられていました。

遠方の、見ず知らずの子どもたちが、一生懸命当所の住所を調べ、ドキドキしながらポストに投函する姿を思い浮かべると、なんとも温かな気持ちになるとともに、力がわいてきます。イラストの少年少女たちのように、県民の皆さまがいつも笑顔でいられるよう、復興を目指して手を取り合っていきましょう！

これからも定期的に「仙台・宮城元気ニュース」を発行していますので、読者の皆さまからのたくさんの明るい情報をお待ちしております。



復興へ頑張ろう！みやぎ

仙台・宮城元気ニュース

Vol. 2 発行！

お問い合わせ先

宮城県仙台地方振興事務所

地方振興部（担当：鈴木、高橋）

(HP) <http://www.pref.miyagi.jp/sdsgsin/>

(E-Mail) sdsinbk2@pref.miyagi.jp

(TEL) 022-275-9140